



湿度と菌とダイアトーマス



天気の移り変わりが激しいこの時期、頭痛やめまい、なんだか体調が優れない、こんな経験はありませんか？
 気温や気圧の変化で起こるこのような症状を「**天気痛**」と言うんですね。この天気痛、多くの方が天気痛予報アプリを利用して、頭痛や身体の痛みの対策をしているそうですよ。そしてもうひとつ、この時期私たちを悩ませるのが**『湿度』**そして、**湿度が高くなることによって増殖する『菌』**。

以前より、**ダイアトーマスを塗っていただいたお客様から「洗濯物の乾きが早くなった」「カビが生えなくなった」**などのお声をいただいております。実際にダイアトーマスの抗菌効果どれほどのものなのか。こちらは、昨年外部検査機関で実施したダイアトーマスの試験結果です。

ダイアトーマスの抗菌効果

単位：個（コロニー数）・%

暗所

	スタート時	8 時間	24 時間
無加工ガラス	140,000	1,800,000	4,200,000
ダイアトーマス	140,000	60	10
DT による減少率		99.957	99.992

※無加工ガラス上の試験菌は時間とともに増殖。

※対してダイアトーマス上の試験菌は減少。

※8 時間で **99.9%**まで減少。

※神奈川県立産業技術総合研究所にて 2021.8.25 試験実施。

※試験規格：JISR1702・2020（抗菌）

※抗菌性能評価試験は大腸菌を用い試験実施。

※無菌化した試験品（無加工ガラス及びダイアトーマス）に 0.25mW/cm²のブラックライトを照射。

※照射後のコロニー数（菌）をカウント。

0.25mW/cm² 照射

	スタート時	8 時間	24 時間
無加工ガラス	140,000	1,100,000	4,600,000
ダイアトーマス	140,000	10	10
DT による減少率		99.992	99.992

※0.25mW/cm²の紫外線を照射。

※紫外光自体では試験菌の増殖を抑制できない。

※**ダイアトーマスの光触媒効果により、**

8 時間後には 99.9%まで減少。

私たちの体は、天気の変化で自律神経にさまざまな影響を受けます。本来、自律神経が正常に働いていれば「気圧」「湿度」「温度」の変化にうまく体を適応させることができますが、自律神経が乱れていると、これらの対応がうまくできません。「気圧」のコントロールは難しいですが「湿度」「温度」はエアコンや除湿器の使用でコントロール出来ます。でも、エアコンや除湿器はまめにお掃除をしないと菌の温床に。（電化製品のお掃除って結構手間がかかるんですね(>_<).) 汚れた機器では逆に菌をばらまいてしまいます。

そこで、**『ダイアトーマスなら塗るだけ！』**

ダイアトーマスを塗った室内は、調湿効果、サーマル効果によって夏は涼しく冬は暖か。だから電気代やお掃除のお悩みも軽減。私たちの生活に不可欠な電気をつくるには、大量の二酸化炭素を排出します。つまり、電気を使う＝温暖化につながっているのです。**持続可能な「何か」は、実は身近にもたくさんあって私たちはそれを選択できます。それを選択することで心地良さが実感でき、おのずと地球環境にも配慮することになる。**それが、自然素材の塗り壁材**『ダイアトーマス』**です。